

はばたきインクル支援だより



深谷はばたき特別支援学校 平成31年4月1日 No.8



この「はばたきインクル支援だより」は、教室の中で支援を必要としている児童生徒にかかわる先生方に特別支援教育のノウハウをワンポイントアドバイスとしてお伝えしたり、保護者へ何らかのヒントをお伝えする目的で、月1回発行しています。深谷はばたき特別支援学校のホームページからバックナンバーを見ることができます。ぜひ、御活用ください。

新しい年度が始まりました。1年の中で最も環境が変化する時です。期待に膨らむ時期でもあります。慣れない環境の中で不安を強く感じたり、今までのやり方と違うことで混乱をしたり、興奮して落ち着けないでいる児童生徒も見られると思います。今回は「新年度に向けての準備」ということで、どんな配慮をしたらよいか考えてみたいと思います。

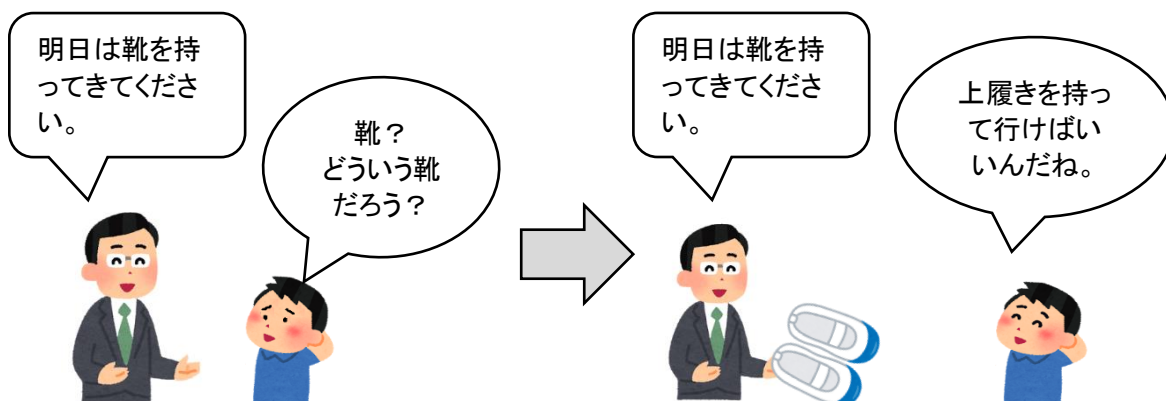


特集 新年度に向けての準備

不安なく新年度をスタートできることが大切です。ちょっとした勘違いでも気にしたり、怒られると
思ってしまう子どももいます。わかりやすく伝えることで、子どもたちの不安は大きく軽減されます。

(1) わかりやすく指示をしよう！

- ① 「簡単な言葉」「短い言葉」で「ゆっくり」伝えるようにします。
- ② 時系列に沿って伝えるようにします。
- ③ わかりやすく、という思いから補足説明をすると、話が長くなり、かえって覚えづらくなります。話が長くなる時には、書いたりプリントを配ったり、視覚情報を添えるようにします。「これと同じの」など、見本があったり、手順表があると、わかりやすくなります。
- ④ 伝えた内容の理解を確認します。「今、先生は何て言った？」と尋ねられると困ってしまう子どもがいます。「明日持ってくるものはなんだったっけ？」など、キーワードを復唱するような問いかけをして確認をします。聞き取れていないようだったら、再度、伝えます。



言葉だけだとイメージしづらい。

実物や写真などがあるとすぐにわかる。

(2) 連絡帳をフルに活用しよう！

- ① 大切な情報は黒板に書いたり、プリントを配ります。
- ② 連絡帳を1日1ページにします。レイアウトをある程度決めて、どこに何が書いてあるか一目でわかるようにします。慣れるまでは枠のある用紙を配り、それに書き込んで、連絡帳に糊付けするようにします。
- ③ 連絡帳を書く時間を多めに設けます。「連絡帳に書きましょう」と声をかけます。机間指導をしながら、記入の様子を見て、書き洩らしがないかを確認します。
- ④ 小学生は、保護者が連絡帳を確認するように、お願いをします。

(3) まずは全体を動かそう！

- ① 個々の配慮を気にしすぎると、活動がうまく行かなくなります。
- ② 「教科書の〇〇ページを開きます。」「そこにある漢字の問題を5つやりましょう。」と予め、全体の動きを伝えます。言葉で理解できる子どもはそれで取り組むことができます。指示がうまく聞き取れなくても、取り組んでいる友だちの様子を見て、それで取り組める子どももいます。そこでうまく取り組めない子どもの支援を行うようにします。
- ③ 全体の動きがスムーズに動き出すと、安心して取り組める環境になります。

(4) 教室の環境を整えよう！

- ① 新学期らしく、楽しく学校に通えるように、教室掲示に工夫をすることはよく見られます。子どもの様子を見て、学習に取り組めるようになったら、掲示物をフェイドアウトします。たくさん色を使って目を引くような掲示物は、授業中でも目を引いてしまうことがあります。
- ② 教室の最も重要な環境は人です。友だちの動き、持ち物など、目や耳を引くことがたくさんあります。先生の話をする時には、鉛筆などを置き、手の動きを止めて、静かな状態にしてから話をするようにします。
- ③ 持ち物も注意がそれやすいものです。消しゴムのカスやちぎれた消しゴムなど、授業中にそれで遊んでしまうことがあります。休み時間の間にゴミを捨てるように声かけをします。

(5) 学習のルールを確認しよう！

年度替わりに次のことを確認します。

- ① 授業中の姿勢…姿勢が崩れると、学習に集中できなくなります。椅子の座り方、足の置き場所、踵を入れて上履きを履いているかを確認します。
- ② 発言をする時…話したいことがあった時には、先生の許可を得てから話すというルールを確認します。
- ③ 授業中に用があって、席から離れるときには、先生の許可を得ます。
- ④ 休み時間…次の授業の準備をしてから、遊びに行ったりトイレに行ったりします。
- ⑤ 鉛筆の持ち方…適切な持ち方だと、長時間書いても疲れません。
- ⑥ 机上の整理…授業に必要な物だけを出すようにします。

(6) 一貫した支援のために

かわりが人によって異なると、子どもは混乱します。児童生徒に適した指導は、継続して行うことで、効果が出てきます。個別の教育支援計画(プランA)や個別の指導計画(プランB)を作成している児童生徒に対しては、校内の共通理解や支援体制の整備、進学に伴う学校間の連携を推進するために活用することが大切です。

プランA・Bがない多くの児童生徒に対しては、例えば、昨年度までの巡回指導での内容や、保護者と確認し合ったかわり方などを引き継いでいきます。

年度初めのあわただしい時期なので、必要な情報を精選して、共有しあえるようにしましょう。